周南市水道事業の業務指標 (PI) の算出結果

JWWA Q 100:2016により算出

■主要背景情報

主要背景情報	番号	背景指標名(CI)	単位	計算式	令和5年度
水道事業体の	CI1	給水人口規模	(人)	現在給水人口	125, 060
プロフィール	CI2	全職員数	(人)	全職員数	58
	CI3	水源種別	_	_	ダム直接
システムの	CI4	净水受水率	(%)	(浄水受水量 / 年間配水量) ×100	0. 02
プロフィール	CI5	給水人口1万人当たりの浄水場数	(箇所/10,000人)	浄水場数 / (現在給水人口/10,000)	0. 72
	CI6	給水人口1万人当たりの施設数	(箇所/10,000人)	(浄水場数+送・配水施設) / (現在給水人口/10,000)	7. 92
	CI7	有収水量密度	(1,000m³/ha)	有収水量 / 計画給水区域面積	1. 49
地域条件の プロフィール	CI8	水道メーター密度	(個/km)	水道メーター数 / 配水管延長	79. 3
	CI9	単位管延長	(m/人)	導送配水管延長 / 現在給水人口	6. 76

主要背景情報とは、水道事業の業務指標(PI)の解釈に必要な情報であり、「水道事業体のプロフィール」「システムのプロフィール」「地域条件のプロフィール」の3つに分類されます。業務指標の数値または業務指標を単独で評価・比較するものではなく、数値の持つ意味を背景情報と共に 考察する必要があります。背景情報(CI)はそのために活用する情報です。

C. 健全な事業経営

A. 安全で良質な水(運営管理、施設整備)・・・・・・・

B. 安定した水の供給(運営管理、施設整備)・・・・・・・

(財務、組織・人材、お客様とのコミュニケーション)・・・

P. 1∼3

P. 4~10

P 11~16

■業務指標(PI)の見方

■目次

▲ 数値が高いほど良い指標
 ▼ 数値が低いほど良い指標
 △ 数値が高いほど良いが上限がある指標
 ▼ 数値が低いほど良いが下限がある指標
 - 数値の大小で判断できないまたは他の指標と併せて総合評価する指標

A. 安全で良質な水

分類	区分	新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	計算式				優位性	R5	R4	R3	単位	表示桁数
					給水栓での残留塩素濃度の平均値を表す指標であ ス	残留塩素濃度合計/残留	塩素測定回数								
		A101	1106	平均残留塩素濃度	残留塩素濃度O.1mg/Lを確保した上で、なるペ く小さな値にすることが望ましい。	安数	R5	R4	R3	∇	0.44	0.43	0.43	mg/L	小数点第2位
		71101	1100	1 2374 E PRINCIPLE		残留塩素濃度合計(mg/L)	8,118	7,798	7,871	V	0.11	0.10	0.10	110/2	-3-9X///(X)-E
						残留塩素測定回数(回)	18,282	18,224	18,241						
					給水栓におけるカビ臭物質濃度の最大値の水質基準値に対する割合を示す指標である。カビ臭は、	(最大力ビ臭物質濃度/水質	質基準値)×100								
					水道水に対する苦情の発生につながりやすく、影響も広範囲で、長期間に及ぶ場合が多い。値は低	年度 変数	R5	R4	R3						
		A102	1105	最大力ビ臭物質濃度 水質基準比率	いほうが良い。	項目	ジェオスミン	ジェオスミン	ジェオスミン		50.0	40.0	120.0	%	小数点第1位
						最大力ビ臭物質濃度(mg/L)	0.000005	0.000004	0.000012						
						水質基準値(mg/L)	0.00001	0.00001	0.00001						
	-				給水栓における総トリハロメタン濃度の水質基準 値に対する割合を示すもので、水道水の安全性を	[(Σ給水栓の総トリハロメタン濃度/総	水栓数) /水質基準	値]×100							
				総トリハロメタン濃度	表す指標の一つである。総トリハロメタンは有害 物質であり、値は低いほうが良い。	年度 変数	R5	R4	R3	_					
		A103	1107	水質基準比率		(Σ給水栓の総トリハロメタン濃度/給水栓数)の最大値 (mg/L)	0.018	0.020	0.017		18.0	20.0	17.0	%	小数点第1位
						水質基準値(mg/L)	0.1	0.1	0.1						
					給水栓における有機物(TOC)濃度の水質基準 値に対する割合を示すもので、水道水の安全性を	[(Σ給水栓の有機物(TOC)濃度/給	水栓数) /水質基準	值]×100							
				有機物(TOC)濃度	表す指標の一つである。有機物(TOC)濃度は 水道水の水質全体に関わる指標であり、値は低い		R5	R4	R3	_					
運営管	水質管理	A104	1108	水質基準比率	ほうが良い。	(Σ給水栓の有機物 (TOC) 濃度/給水栓数) の最大値 (mg/L)	0.5	0.5	0.5		16.7	16.7	16.7	%	小数点第1位
理	理					水質基準値(mg/L)	3	3	3						
					給水栓における重金属濃度の水質基準値に対する 割合を示すもので、水道水の安全性を表す指標の	[(∑給水栓の当該重金属濃度/給水	栓数)/水質基準値	×100							
					一つである。重金属は有害物質であり、値は低い ほうが良い。	変 数 年度	R5	R4	R3						
		A105	1110	重金属濃度水質基準比率		項目	ヒ素及びその化合物	鉛及びその化合物、 ヒ素及びその化合物	鉛及びその化合物		10.0	10.0	10.0	%	小数点第1位
						(Σ給水栓の当該重金属濃度/給水栓数)の最大値 (mg/L)	0.001	0.001	0.001						
						水質基準値(mg/L)	0.01	0.01	0.01						
					給水栓における無機物質濃度の水質基準値に対す る割合を示すもので、水道水の味、色など性状を	[(Σ給水栓の当該無機物質濃度/給水	〈栓数〉/水質基準値	i]×100					<u> </u>		
					表す指標の一つである。 <u>水質基準値より低い値で</u> ある必要があるが、他の指標と併せて評価する。		R5	R4	R3						
		A106	1111	無機物質濃度水質基準比率		項目	カルシウム、マグネ シウム等(硬度)	カルシウム、マグネ シウム等(硬度)	カルシウム、マグネ シウム等(硬度)	_	12.8	13.4	12.1	%	小数点第1位
						(Σ給水栓の当該無機物質濃度/給水栓数)の最大値 (mg/L)	38.5	40.1	36.3						
						水質基準値(mg/L)	300	300	300						
					給水栓における有機化学物質濃度の水質基準値に 対する割合を示すもので、原水の汚染状況及び水	[(Σ給水栓の当該有機化学物質濃度/総	水栓数)/水質基準	値]×100							
					道水の安全性を表す指標の一つである。有機化学 物質は有害物質であり、値は低いほうが良い。	年度 変数	R5	R4	R3						
		A107	1113	有機化学物質濃度 水質基準比率		項目					0.0	0.0	0.0	%	小数点第1位
				小具坐牛儿干		(Σ給水栓の当該有機化学物質濃度/給水栓数)の最大値 (mg/L)	全て 不検出	全て 不検出	全て 不検出	*					
						水質基準値(mg/L)									

A. 安全で良質な水

分類 区分	新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	計算式				優位性	R5	R4	R3	単位	表示桁数
				給水栓における消毒副生成物濃度の水質基準値に 対する割合を示すもので、原水の汚染状況及び水	[(Σ給水栓の当該消毒副生成物濃度/給水	k栓数)/水質基準	値]×100							
				道水の安全性を表す指標の一つである。消毒副生 成物は有害物質であり、値は低いほうが良い。	変数	R5	R4	R3						
	A108	1114	消毒副生成物濃度 水質基準比率		項目	トリクロロ酢酸	トリクロロ酢酸	トリクロロ酢酸		16.7	23.3	23.3	%	小数点第1位
אר			332172		(Σ給水栓の当該消毒副生成物濃度/給水栓数)の最大値 (mg/L)	0.005	0.007	0.007						
水質					水質基準値(mg/L)	0.03	0.03	0.03						
管理				給水栓における各農薬類と目標値との比の合計を 示すもので、水源の汚染状況及び水道水の安全性	maxΣ(各農薬の濃度/各島	農薬の目標値)								
				を表す指標の一つである。 農薬は有害であるため、値は低いほうが良い。	変数 年度	R5	R4	R3						
	A109	1109	農薬濃度水質管理目標比		測定した農薬数	129	129	127		0.000	0.000	0.020	-	小数点第3位
					検出された農業名	全て	全て	ピラクロニル						
					(各農業の濃度/各農業の目標値)の合計	不検出	不検出	0.020						
				水道事業体が原水水質の項目をどの程度検査して いるかを示しており、水道事業体の水質管理水準 を表す。原水の特質によるところもあり、必ずし	原水水質監視項目 ※月1回以上測定する項									
	A201	1101	原水水質監視度	も項目数が多いことが良いとは限らない。	変数 年度	R5	R4	R3	_	33	33	33	項目	整数
					原水水質監視項目数	33	33	33						
				給水栓における毎日水質検査に関して、給水面積 100km ² 当たりの給水栓水質の監視箇所数を示	給水栓水質検査(毎日)採水箇所数/	(現在給水面積/	100)							
	A202	1102	給水栓水質検査	したものであり、水道水の水質管理水準を表す。 値は高いほうが良い。	変数	R5	R4	R3	A	50.7	50,7	50,7	***== /4.00L 2	小数点第1位
	A202	1102	(毎日)箇所密度		給水栓水質検査(毎日)採水箇所数(箇所)	50	50	50		50.7	50.7	50.7	箇所/100km ²	小数無易1世
運営					現在給水面積(km²)	98.7	98.7	98.7						
管 理				配水池有効容量に対する5年間に清掃した配水池 有効容量の割合を示すもので、安全で良質な水へ	(5年間に清掃した配水池有効容量/配	記水池有効容量)	×100							
施	A203	5002	およいませつ	の取組み度合いを表す。定期的な清掃は、安全で 良質な水の供給を行う上で重要であり、値は高い	変数	R5	R4	R3	A	65.1	66.4	88,4	%	小数点第1位
設管	A203	3002	配水池清掃実施率	ほうが良い。	5年間に清掃した配水池有効容量(m ³)	34,409	35,066	46,695		65.1	00.4	00.4	/0	小数無易1世
理					配水池有効容量(m ³)	52,821	52,821	52,821						
				給水件数に対する直結給水件数の割合を示すもの で、受水槽管理の不備に伴う衛生問題などに対す	(直結給水件数/給水件	数)×100								
	A204	1115	直結給水率	る水道事業体としての取組み度合いを表す。値は 高いほうが良い。	変数	R5	R4	R3	A	95.8	95.9	96.0	%	小数点第1位
	A204	1115	巨和和小举		直結給水件数(件)	58,851	58,859	58,856		90.6	95.9	96.0	/0	小数無易1世
					給水件数(件)	61,443	61,397	61,301						
				貯水槽水道数に対する指導を実施した件数の割合 を示すもので、水道事業としての貯水槽水道への	(貯水槽水道指導件数/貯水槽	水道数) ×100								
	4005	5115		関与度を表す。値は高いほうが良い。	変数	R5	R4	R3	A	1.2	0.9	4.5	%	小数点第1位
	A205	5115	貯水槽水道指導率		貯水槽水道指導件数(件)	8	6	30		1.2	0.9	4.5	76	小数屈弗 1世
					貯水槽水道数(件)	687	682	664						
	A301	2201	水源の水質事故件数	1年間における水源の水質事故件数を示すもので、水源の突発的水質異常のリスクがどれだけあるかを表す。値は低いほうが良い。	年間水源水質事故	件数			_	0	0	0	件	整数
事 故 "				粉末活性炭注入設備を保有する浄水場における年 間浄水処理量に対する、粉末活性炭年間処理水量	(粉末活性炭年間処理水量/年	間浄水量)×100)							
災害	4000	4440	WAY SELECTION OF THE COMME	の割合を示すもので、原水の汚染状況、水質事故 などに対する対応を表す。 値は低いほうが良い。	変数	R5	R4	R3		700	64.0	610	64	小学生的人
対策	A302	1116	粉末活性炭処理比率		粉末活性炭年間処理水量(千m ³)	11,837	9,674	10,250	•	76.0	61.2	61.6	%	小数点第1位
					年間浄水量(千m ³)	15,578	15,804	16,643						

A. 安全で良質な水

分類	区分	新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	計算式				優位性	R5	R4	R3	単位	表示桁数
					給水件数に対する鉛製給水管使用件数の割合を示すものであり、鉛製給水管の解消に向けた取組み	(鉛製給水管使用件数/給水	:件数)×100								
施設	施設	A401	1117	鉛製給水管率	の進捗度合いを表す。現在では鉛製給水管の新設 は認められていない。値は低いほうが良い。	変数 年度	R5	R4	R3		0.0	0,0	0.0	0/.	小数点第1位
整備	更新	A401	' ' ' '	如疑而小巨学		鉛製給水管使用件数(件)	0	0	0	•	0.0	0.0	0.0	/6	UI cemzero
						給水件数(件)	61,443	61,397	61,301						

B. 安定した水の供給

水道事業ガイドライン (JWWA Q 100 :2016) により算出

分類	区分	新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	計算式				優位性	R5	R4	R3	単位	表示桁数
					水道事業体が保有する全ての水源量に対する、そ の水道事業体が単独で管理し、水道事業体の意思		水量)×100								
		D404	4004	<u> </u>	で自由に取水できる水源量の割合を示すもので、 水源運用の自由度を表す。	変数 年度	R5	R4	R3	•	0.0			0/	11, 300 - 00 - 10
		B101	1004	自己保有水源率		自己保有水源水量(m ³ /日)	907	907	907		0.9	0.9	0.9	%	小数点第1位
						全水源水量(m ³ /日)	103,828	103,828	103,828						
					取水量1m ³ 当たりに対する水質保全に対する投 資費用を示すもので、水道事業体の水質保全への	水源保全に投資した費用。	/年間取水量	'							
		B102	1005	取水量1m ³ 当たり水源保全	取組み状況を表す。値は高いほうが良い。	年度 変数	R5	R4	R3	A	0	0	0	m / 3	有効数字2桁
		B102	1005	投資額		水源保全に投資した費用(円)	0	0	0		U			円/m ³	1月刈奴子之们
						年間取水量(m ³)	17,699,389	18,164,036	18,938,642						
					水源利用水量に対する地下水揚水量の割合を示す もので、水道事業体の水源特性を表す。 <u>この比率</u>	(地下水揚水量/年間取水	(量) ×100								
		B103	4101	地下水率	が高ければ経営上有利といえるが、水源が井戸だ けである場合が必ずしも望ましいというわけでは		R5	R4	R3	_	0.4	0.4	0.4	%	小数点第1位
		B103	4101	地下小车	<u> \$(1).</u>	地下水揚水量(m³)	76,138	79,926	72,932	_	0.4	0.4	0.4	70	小数屈弗 1世
						年間取水量(m ³)	17,699,389	18,164,036	18,938,642						
					施設能力に対する一日平均配水量の割合を示すも ので、水道施設の効率性を表す。経営効率化の観	(一日平均配水量/施設能	力)×100								
		B104	3019	thr AD TO LETT the	点からは数値が高い方が良いが、施設更新、事故 に対応できる一定の余裕は必要である。	年度 変数	R5	R4	R3	٨	49.8	51.3	53.8	%	小数点第1位
		B104	3019	施設利用率		—日平均配水量(m³/日)	44,832	46,164	48,394	\triangle	49.8	51.3	53.8	70	小数屈弗 1世
運営管	施設					施設能力(m³/日)	89,948	89,948	89,948						
管理	管理				施設能力に対する一日最大配水量の割合を示すも ので、水道施設の効率性を表す。 値が高い方が、	(一日最大配水量/施設能	力)×100								
		B105	3020	最大稼働率	施設が有効利用されているといえるが、100% に近い場合には、安定的な給水に問題があるとい		R5	R4	R3	٨	57.6	67,6	60.4	%	小数点第1位
		БТОО	3020	販人 核園 学	える。		51,804	60,800	54,301	\triangle	57.6	67.6	60.4	/0	小数無易1世
						施設能力(m ³ /日)	89,948	89,948	89,948						
					日最大配水量に対する 日平均配水量の割合を 示すもので、水道施設の効率性を表す。 値は高い	(一日平均配水量/一日最大配	配水量)×100								
		B106	3021	負荷率	ほうが良い。	変 数	R5	R4	R3	A	86.5	75.9	89.1	%	小数点第1位
		ВТОО	3021	貝怛华		—日平均配水量 (m ³ /日)	44,832	46,164	48,394		80.5	75.5	09.1	/6	711 ck/m/xert/
						—日最大配水量 (m ³ /日)	51,804	60,800	54,301						
					給水面積当たりの配水管延長を示すもので、お客 さまからの給水申込みに対する物理的利便性の度	配水管延長/現在給	水面積								
		B107	2007	配水管延長密度	合いを表す。 <u>値が高ければ一概に整備状況が良好</u> ということではなく、人口密度等により適切な規	変数 年度	R5	R4	R3	_	8.2	8.2	8.2	2	小数点第1位
		ыот	2007	癿小巨延技士及	模がある。	配水管延長(km)	814	812	811		0.2	0.2	0.2	km/km ²	小数無易1世
						現在給水面積(km²)	98.70	98.70	98.70						
					管路延長に対する1年間で点検した管路延長の割合を示すもので、管路の健全性確保に対する執行	(点検した管路延長/管路	延長)×100								
		B108	5111	管路点検率	度合いを表す。値は高いほうが良い。	年度 変数	R5	R4	R3	A	3.6	12.9	10,0	%	小数点第1位
		0100	3111	官給無快率		点検した管路延長(km)	30	109	84		3.0	12.9	10.0	70	111 表別及い
						管路延長(km)	845	843	842						

B. 安定した水の供給

水道事業ガイドライン (JWWA Q 100 :2016) により算出

分類	区分	新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	計算式				優位性	R5	R4	R3	単位	表示桁数
/J 500	62	机田马	1085	*2016137	バルブ設置数に対する1年間に点検したバルブ数	(占馀したバルブ類/バルブ	段器数)×100			施江江	110	114	110	+102	200111300
					の割合を示すもので、管路の健全性確保に対する 執行度合いを表すもの。値は高いほうが良い。	年度	R5	R4							
		B109	新規	バルブ点検率		変数			R3		0.0	0.0	0.0	%	小数点第1位
						点検したバルブ数(個)	0	0	0						
						バルブ設置数(個)	12,097	12,022	11,953						
					配水量に対する漏水量の割合を示しており、事業効率を表す。漏水は浄水の損失だけでなく、エネ	(年間漏水量/年間配水	量)×100								
		B110	5107	漏水率	ルギー損失、給水不良、道路陥没などの事故にも つながる大きな損失となるため、値は低いほうが 良い。	変数 年度	R5	R4	R3		7.6	7.0	9.6	%	小数点第1位
		5		west-	EXV 16	年間漏水量 (m ³)	1,239,556	1,184,530	1,697,109	•			0.0	,,,	5 20M25 1 I
						年間配水量 (m ³)	16,408,532	16,850,170	17,663,645						
					年間配水量に対する年間有効水量の割合を示すも ので、水道事業の経営効率性を表す。 値は高いほ	(年間有効水量/年間配力	(量) ×100								
					うが良い。	年度 変数	R5	R4	R3	•					
		B111	新規	有効率		年間有効水量(m³)	15,168,615	15,665,194	15,966,380		92.4	93.0	90.4	%	小数点第1位
						 年間配水量 (m ³)	16,408,532	16,850,170	17,663,645						
	ŀ				年間配水量に対する年間有収水量の割合を示すも ので、水道施設を通して供給される水量が、どの	(年間有収水量/年間配)	(量) ×100								
					程度収益につながっているかを表す。 値は高いほうが良い。	年度	R5	R4	R3						
		B112	3018	有収率	JARVI.	変数 年間有収水量(m ³)	14,726,698	15,201,424	15,511,167		89.8	90.2	87.8	%	小数点第1位
						年間配水量 (III) 年間配水量 (m ³)		16,850,170	17,663,645						
運営	施設					配水池有効容量/一日平		10,000,110	17,000,040						
管理	管理				示すもので、給水に対する安定性を表す。需要と 供給の調整及び突発事故に備え、0.5日分以上は	年度		R4	DO.						
進	班	B113	2004	配水池貯留能力	必要とされている。	変数	R5		R3	\triangle	1.18	1.14	1.09	₿	小数点第2位
						配水池有効容量(m ³)	52,821	52,821	52,821						
					給水人ロー人当たりの配水量を示すもので、家庭	一日平均配水量(m ³ /日)	44,832	46,164	48,394						
					用以外の水利用の多少を表す。夜間人口に比べて	(一日平月配水量×1,000)	T								
		B114	2002	給水人ロー人当たり配水量	昼間人口が多い大都市、観光地での数値が高くなることが想定される。	変数	R5	R4	R3	_	358	365	380	L/日・人	整数
						一日平均配水量(m³/日)	44,832	46,164	48,394						
						現在給水人口(人)	125,060	126,365	127,301						
		B115	2005	給水制限日数	1年間に給水制限を実施した日数を示すもので、 給水サービスの安定性を表す。値は低いほうが良い。	年間給水制限日]数				0	О	0	В	整数
	Ì				給水区域内に居住する人口に対する給水人口の割	(現在給水人口/給水区域内	3人口)×100								
					合を示すもので、水道事業のサービス享受の概況 及び地域性を表す。	年度	R5	R4	R3						
		B116	2006	給水普及率		変数 現在給水人口(人)	125,060	111	127,301	_	95.0	94.7	94.5	%	小数点第1位
						給水区域内人口(人)	131,644		134,725						
	-				機械・電気・計装機器の合計数に対する点検機器				134,723						
					数の割合を示すもので、設備の健全性確保に対する点検割合を表す。数年に一度の頻度で実施する	(点検機器数/機械・電気・計装機									
		B117	5110	設備点検実施率	機器もあるため、指標値は100%にならない場合がある。	変数	R5	R4	R3		38.6	38.5	38.4	%	小数点第1位
						点検機器数(台)	463	464	462						
						機械・電気・計装機器の合計数(台)	1,200	1,206	1,202						

B. 安定した水の供給

水道事業ガイドライン (JWWA Q 100 :2016) により算出

D. XX	E C /_ /\ 0.	/ I/\\nu									77,227,77	1212 (IIIIA Q 100 -2010	, 1 -0-7 ун ш
分類 区线	分 新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	計算式				優位性	R5	R4	R3	単位	表示桁数
				直近10年間に浄水場が事故で停止した件数を一 浄水場当たりの割合として示すものであり、施設	10年間の浄水場停止事故件	数/浄水場数								
				の信頼性を表す。値は低いほうが良い。	安数 年度	R5	R4	R3	_					
	B201	5101	浄水場事故割合		10年間の浄水場停止事故件数(件)	0	0	0		0.00	0.00	0.00	件/10年・箇所	小数点第2位
					净水場数(箇所)	9	9	9						
				浄水場などの事故時において給水できない人口の		\□) ×100								
				割合を示しており、水道事業体のシステムの融通性、余裕度によるサービスの安定性を表す。 値は低いほうが良い。	年度	R5	R4	R3						
	B202	2204	事故時断水人口率	座がはフル及が。	変数 事故時將水人口(人)	44,720	45,313	45,636		35.8	35.9	35.8	%	小数点第1位
					現在給水人口(人)	125,060		127,301						
				災害時に確保されている給水人ロー人当たりの飲	(配水油右劢物票∨1/2±整角贮水槽物票			121,001						
				料水量を示す指標であり、水道事業体の災害対応 度を表す。この業務指標は、貯留量を表すもの	年度	R5	R4	R3						
	B203	2001	給水人ロー人当たり	で、必ずしも利用可能量ではない。利用には、応 急給水設備、給水車、ポリタンクなどが必要にな るので、これらと一体で考える必要がある。値は	~~	52,821	52,821	52,821	A	211	209	207	L/人	整数
			貯留飲料水量	高いほうが良い。	緊急貯水槽容量 (m³)	0	0	0						
					現在給水人口(人)	125,060	126,365	127,301						
	-			1年間における導・送・配水管路の事故件数を延			120,000	121,001						
				長100km当たりの件数に換算したものであり、 管路の健全性を表す。値は低いほうが良い。	変数 年度	R5	R4	R3	_					
運数		5103	管路の事故割合		を	15	13	8		1.8	1.5	1.0	件/100km	小数点第1位
営 災管 害					管路延長(km)	845	843	842						
理対策	1			1年間における基幹管路の事故件数を延長 100km当たりの件数に換算したものであり、基	基幹管路の事故件数/(基幹管	路延長/100)								
				幹管路の健全性を表す。値は低いほうが良い。	変数 年度	R5	R4	R3	_					
	B205	2202	基幹管路の事故割合		基幹管路の事故件数(件)	0	0	1		0.0	0.0	2.5	件/100km	小数点第1位
					基幹管路延長(km)	40	40	40						
				1年間における鉄製導・送・配水管路の事故件数		路延長/100)								
i l				を延長100km当たりの件数に換算したものであり、鉄製管路の健全性を表す。値は低いほうが良い		R5	R4	R3	_					
	B206	5104	鉄製管路の事故割合	V 10	要数 鉄製管路の事故件数(件)	0	1	5		0.0	0.3	1.4	件/100km	小数点第1位
					鉄製管路延長(km)	358	359	359						
				1年間における非鉄製導・送・配水管路の事故件		管路延長/100)								
				数を延長100km当たりの件数に換算したものであり、非鉄製管路の健全性を表す。値は低いほうが良い。	年度	R5	R4	R3						
	B207	5105	非鉄製管路の事故割合	13 DRU 16	変数 非鉄製管路の事故件数(件)	46	47	3		9.5	9.8	0.6	件/100km	小数点第1位
					非鉄製管路延長(km)	484	482	480						
				給水件数1,000件当たりの給水管の事故件数を				.30						
				示しており、配水管分岐から水道メーターまでの 給水管の健全性を表す。値は低いほうが良い。	変数	R5	R4	R3	_					
	B208	5106	給水管の事故割合		名が 給水管の事故件数(件)	213	167	181		3.5	2.7	3.0	件/1,000件	小数点第1位
					給水件数(件)	61,443		61,301						
						,							ļ	l

B. 安定した水の供給

水道事業ガイドライン (JWWA Q 100 :2016) により算出

	区分	新番号		業務指標	業務指標の説明	計算式				優位性	R5	R4	R3	単位	表示桁数
刀親	区刀	利留写	旧番号	来预拍惊	表務14億の試明 現在給水人口に対する断水・濁水時間を示すもの			–		1度11/11生	RO	H4	R3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	衣亦们致
					であり、給水の安定度を表す。値は低いほうが良	Σ (断水・濁水時間×断水・濁水区域	給水人口)/現在# -	給水人口							
		D000	F400	給水人ロー人当たり	V 1 ₀		R5	R4	R3		0.00	004	0.04	0+88	11. W7 EAT O III
		B209	5109	平均断水·濁水時間		Σ (断水・濁水時間×断水・濁水区域給水人口)	2,418	1,796	998	•	0.02	0.01	0.01	時間	小数点第2位
	事故					現在給水人口(人)	125,060	126,365	127,301						
	災害対	B210	新規	災害対策訓練実施回数	1年間に災害対策訓練を実施した回数を示すもので、自然災害に対する危機対応性を表す。	年間の災害対策訓練	実施回数	1			2	3	0	回/年	整数
	策				配水管延長に対する消火栓の設置密度を示すもので、危機対応能力の度合いを表す。設置数だけに	消火栓数/配水管	延長								
					とらわれず、適所に設置することが望ましい。	年度 変数	R5	R4	R3	٨					
		B211	5114	消火栓設置密度		消火栓数(基)	2,188	2,181	2,174	\triangle	2.7	2.7	2.7	基/km	小数点第1位
						配水管延長(km)	814		811						
-					配水量1m ³ 当たりの電力使用量を示すもので、	雲力使用悪の合計/タ		0.2	9,,						
					省エネルギー対策への取組み度合いを表す。値は 低いほうが良い。	年度	R5	R4	D2						
		B301	4001	配水量1m ³ 当たり 電力消費量		変数	_		R3		0.41	0.41	0.40	kWh/m ³	有効数字2桁
				~5/5/5 <u>~</u>		電力使用量の合計(kWh)	6,728,749		7,153,456						
						年間配水量(m³)	16,408,532	16,850,170	17,663,645						
					配水量当たりの消費エネルギー量の割合を示すも ので、省エネルギー対策への取組み度合いを表	エイルヤー消貨量/中	間配水量								
		B302	4002	配水量1m ³ 当たり	す。値は低いほうが良い。	年度 変数	R5	R4	R3		3.56	3.96	3.92	MJ/m ³	小数点第2位
運営		DOOZ	1002	消費エネルギー		エネルギー消費量(MJ)	58,441,389	66,650,131	69,284,594	•	0.00	0.50	0.52	IVIO/III	7.8XMX3212
管理						年間配水量(m³)	16,408,532	16,850,170	17,663,645						
進	ľ				年間配水量に対する総二酸化炭素(CO ₂)排出量であり、環境保全への取組み度合いを表す。値	[二酸化炭素(CO ₂)排出量/:	- 年間配水量]×10 ⁶	5							
				==-1.== 4 3×/-+ 10	は低いほうが良い。	変数 年度	R5	R4	R3	_					
		B303	4006	配水量1m ³ 当たり 二酸化炭素(CO ₂)排出量			3,728	3,657	4,031		227	217	228	g • CO ₂ /m ³	整数
	環					年間配水量 (m ³)		16,850,170	17.663.645						
	境対				 全施設の電力使用量に対する再生可能エネルギー	(本生可性エネルギー・乳供の無力体円量			17,000,040						
	策				の利用の割合を示すもので、環境負荷低減に対する取組み度合いを表す。値は高いほうが良い。	(再生可能エネルヤー設備の竜刀使用車/									
		B304	4003	再生可能エネルギー利用率		変数	R5	R4	R3		0	0	0	%	有効数字2桁
						再生可能エネルギー設備の電力使用量(kWh)	0	0	0						
						全施設の電力使用量(kWh)	6,728,749	6,870,259	7,153,456						
					浄水発生土量に対する有効利用土量の割合を示す もので、環境保全への取組み度合いを表す。 値は	(有効利用土量/浄水発生	土量)×100								
		B305	4004	浄水発生土の有効利用率	高いほうが良い。	安数 年度	R5	R4	R3	A	100.0	100,0	100.0	%	小数点第1位
		D300	4004	净小先生工00月划利用举		有効利用量(t-Ds)	189	214	285		100.0	100.0	100.0	/6	UICKMARIU
						净水発生土量(t-Ds)	189	214	285						
	ŀ				水道事業における工事などで発生する建設副産物 のうち、リサイクルされた建設副産物量の割合を	(リサイクルされた建設副産物量/建	設副産物発生量)	×100							
					のうら、ワリイクルされた建設制産物量の割合を 示すもので、環境保全への取組み度合いを表す。 値は高いほうが良い。	年度	R5	R4	R3						
		B306	4005	建設副産物のリサイクル率	IEMORGY NO JAPAN	変数 リサイクルされた建設副産物量(t)	1,566		1,312		19.0	24.8	21.9	%	小数点第1位
							1,7		5,996						
						建設副産物発生量(t)	8,245	0,475	5,996						

B. 安定した水の供給

水道事業ガイドライン (JWWA Q 100:2016) により算出

分類	区分	新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	計算式				優位性	R5	R4	R3	単位	表示桁数
					全管路延長に対するダクタイル鋳鉄管・鋼管の割 合を示すもので、管路の母材強度に視点を当てた	[(ダクタイル鋳鉄管延長+鋼管延長) /管路延長]×1	00							
					指標。埋設管が輻輳している路線、車両荷重の負 荷が大きい路線においては、管母材の強度が必要		R5	R4	R3						
		B401	5102	ダクタイル鋳鉄管・鋼管率	ී රත්තිය.	ダクタイル鋳鉄管延長(km)	326	326	326	\triangle	40.9	41.0	41.1	%	小数点第1位
	施					鋼管延長(km)	20	20	20						
	設管					管路延長(km)	845	843	842						
	理				管路延長に対する1年間に新設した管路延長の割合を示すもので、管路整備度合いを表す。B	(新設官路延長/官路延長) ×100								
		B402	2107	管路の新設率	107(配水管延長密度)、B116(給水普及率)などと併せた評価が必要である。	変数 年度	R5	R4	R3	_	0.19	0.05	0.04	%	小数点第2位
		D102	2.01	B80*2#/8X-P		新設管路延長(km)	1.6	0.4	0.3		0.10	0.00	0.04	70	-5-90/M/3521 <u>11</u>
						管路延長(km)	845	843	842						
					全浄水施設能力に対する法定耐用年数(60年) を超過した浄水施設の浄水能力の割合を示すもの	(法定耐用年数を超えている浄水施設能力	/全浄水施設能力) ×100							
		B501	2101	法定耐用年数超過浄水施設率	で、施設の老朽化度、更新の取組み状況を表す。 この業務指標は、浄水施設の使用の可否を示すも のではない。値は低いほうが良い。	変数 年度	R5	R4	R3		0.0	0.0	0.0	%	小数点第1位
				Tanada (Sanada)	のではない。個は色ではクルスで	法定耐用年数を超えている浄水施設能力 (m ³ /日)	0	0	0	•					
	L					全净水施設能力(m ³ /日)	89,948	89,948	89,948						
					水道施設に設置されている機械・電気・計装設備 の機器合計数に対する法定耐用年数を超えている	(法定耐用年数を超えている機械・電気 /機械・電気・計装設備などのき		D合計数							
					機器数の割合を示すもので、機器の老朽度、更新 の取組み状況を表す。この業務指標は、水道設備 の使用の可否を示すものではない。値は低いほう		R5	R4	R3						
施		B502	2102	法定耐用年数超過設備率	が良い。	法定耐用年数を超えている機械・電気・計装設備などの合計数(式)	395	376	362		58.6	58.2	58.6	%	小数点第1位
設整						機械・電気・計装設備などの合計数(式)	674	646	618						
備					管路の延長に対する法定耐用年数(40年)を超 えている管路の割合を示すもので、管路の老朽化	(法定耐用年数を超えている管路延星	長/管路延長)×	100							
	施設更				度、更新の取組み状況を表す。この業務指標は、 水道管路の使用の可否を示すものではない。値は	空 数 年度	R5	R4	R3	_					
	新	B503	2103	法定耐用年数超過管路率	低いほうが良い。	法定耐用年数を超えている管路延長(km)	275	263	255		32.5	31.2	30.3	%	小数点第1位
						管路延長(km)	845	843	842						
					管路の延長に対する更新された管路延長の割合を 示すもので、信頼性確保のための管路更新の執行	(更新された管路延長/管路延	E長)×100	'							
		B504	2104	管路の更新率	度合いを表す。更新率が1%の場合、管路更新事業規模が100年周期ということになる。値は高	年度 変数	R5	R4	R3	A	0.47	0.59	0.59	%	小数点第2位
		6004	2104	自成の支利率	いほうが良い。	更新された管路延長 (km)	4	5	5		0.47	0.59	0.59	/6	小数無易之世
						管路延長 (km)	843	842	846						
					管路の延長に対する更生を行った管路の割合を示すもので、信頼性確保のための管路維持の執行度	(更生された管路延長/管路延	延長)×100								
		B505	2105	管路の更生率	合いを表す。 <u>管路の更生によって全ての管路機能</u> が回復するわけではない。	変数 年度	R5	R4	R3	_	0.000	0.000	0.000	%	小数点第3位
		Вооо	2100			更生された管路延長 (km)	0	0	0		0.000	0.000	0.000	70	∪00kmxgrt
						管路延長(km)	843	842	846						
	事				全浄水施設能力に対する他系統からの融通可能な 原水水量の割合を示すものであり、水運用の安定		能力)×100								
	故災	B601	2206	系統間の原水融通率	性、柔軟性、及び危機対応性を表す。値は高いほうが良い。	変数 年度	R5	R4	R3	A	0.0	0.0	0.0	%	小数点第1位
	割対	2001		いかにむらいいいいはでは、		原水融通能力(m ³ /日)	0	0	0		0.0	0.0	0.0	/	5-3A/MA3 1 III
	策					全净水施設能力(m ³ /日)	89,948	89,948	89,948						

B. 安定した水の供給

水道事業ガイドライン (JWWA Q 100 :2016) により算出

	区分	新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	計算式				優位性	R5	R4	R3	単位	表示桁数
22.00	_,_	17122	1000	X-333-Lin	全浄水施設能力に対する耐震対策が施されている	(耐煙が築の抜きれた海火炸乳出力/企	浄水施設能力)	×100		tial, tam tak	7.10		7.0		2001113200
					浄水施設能力の割合を示すもので、地震災害に対 する浄水処理機能の信頼性・安全性を表す。 値は	年度	R5	R4	R3						
		B602	2207	浄水施設の耐震化率	高いほうが良い。	変数	62,678		2,178		69.7	29.9	2.4	%	小数点第1位
						耐震対策の施された浄水施設能力 (m³/日)									
					浄水施設のうち主要構造物である、沈でん池及び	全净水施設能力(m³/日)	89,948		89,948						
					ろ過池に対する耐震対策が施されている割合を示すもので、B602 (浄水施設の耐震化率) の進捗			喪化净水 施設能力)							
				浄水施設の主要構造物	を表す。値は高いほうが良い。	変数 年度	R5	R4	R3	•					
		B602-2	新規	アルル設の主要構造物 耐震化率		沈でん・ろ過を有する施設の耐震化浄水施設能力+ろ過のみ施設の耐震化浄水施設能力(m ³ /日)	62,678	44,778	32,428		69.8	49.8	36.1	%	小数点第1位
						全浄水施設能力(m ³ /日)	89,844	89,844	89,844						
	İ				耐震化対象ポンプ所能力に対する耐震対策が施されたポンプ所能力の割合を示すもので、地震災害	(耐震対策の施されたポンプ所能力/耐震化	対象ポンプ所能	カ)×100							
					に対するポンプ施設の信頼性・安全性を表す。 値 は高いほうが良い。	年度 変数	R5	R4	R3	•					
		B603	2208	ポンプ所の耐震化率		耐震対策の施されたポンプ所能力(m ³ /日)	144,625	144,625	144,625		59.0	59.0	59.0	%	小数点第1位
						耐震化対象ポンプ所能力 (m ³ /日)	245,217	245,217	245,217						
	Ì				全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池 の容量の割合を示すもので、地震災害に対する配	(耐震対策の施された配水池有効容量/	配水池有効容量)	×100							
					水池の信頼性・安全性を表す。値は高いほうが良い。	※平成28年度から配水池有効容量に									
	事	B604	2209	配水池の耐震化率	V 16	変数	R5	R4	R3		48.9	48.9	47.5	%	小数点第1位
施設	故災					耐震対策の施された配水池有効容量(m ³)	25,852	25,852	25,102						
整備	害対				導・送・配水管(配水支管を含む)全ての管路の	配水池有効容量(m ³)	52,821	52,821	52,821						
	策				等・述・配水管(配水文管を320)至(の管路の 延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、 地震災害に対する水道管路網の安全性・信頼性を	(耐震管延長/管路延長)) ×100								
		B605	2210	管路の耐震管率	表す。値は高いほうが良い。	変数 年度	R5	R4	R3	A	* 33.5	* 32.9	* 32.2	%	小数点第1位
		5000		830°VIII M 8 7		耐震管延長(km)	283	277	271		00.0	02.0		,,,	3 SAMMOO 1 I
						管路延長(km)	845	843	842						
					基幹管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すものであり、地震災害に対する基幹管路の安全	(基幹管路のうち耐震管延長/基幹	斧管路延長)×10	00							
		D000	****		性・信頼性を表す。値は高いほうが良い。	変数 年度	R5	R4	R3	•			* 42.5	%	11.385 F-75 4 feb
		B606	新規	基幹管路の耐震管率		基幹管路のうち耐震管延長(km)	17	17	17		* 42.5	* 42.5	* 42.5	%	小数点第1位
						基幹管路延長(km)	40	40	40						
					基幹管路の延長に対する耐震適合性のある管路延 長の割合を示すもので、B606(基幹管路の耐震	(基幹管路のうち耐震適合性のある管路延	長/基幹管路延長	E) ×100							
					管率)を補足する指標。値は高いほうが良い。		R5	R4	R3						
		B606-2	新規	基幹管路の耐震適合率		基対 基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長(km)	32	32	31		80.0	80.0	77.5	%	小数点第1位
						基幹管路延長(km)	40		40						
					重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震管	(重要給水施設配水管路のうち耐震管延長/重要									
					延長の割合を示すもので、大規模な地震災害に対する重要給水施設配水管路の安全性・信頼性を表	年度	R5	R4	R3						
		B607	新規	重要給水施設配水管路の 耐震管率	す。値は高いほうが良い。(※耐震管の延長に、 水道配水用ポリエチレン管を含めた場合は、業務	変数			30		* 32.5	* 39.0	* 39.0	%	小数点第1位
					指標にアスタリスク(*)を付ける。)	重要給水施設配水管路のうち耐震管延長(km)	27	30							
						重要給水施設配水管路延長(km)	83	77	77						

B. 安定した水の供給

															× / (
Befor 2 前域 単数約次極路形が振路の 1	表示桁数	単位	R3	R4	R5	優位性				計算式	業務指標の説明	業務指標	旧番号	新番号	区分
B607-2 新規 国更於米知師及水僧師の 新規 他工作 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日								長			合性のある管路延長の割合を示すもので、B607				
日のグロ書中の存産組化と二川を含めた場合 成業担任にアスタリスフ (2 付付) (3 付付) (3 付付) (4 付付)	小数点第1	%	571	571	54.2	A	R3	R4	R5		指標。値は高いほうが良い。(※耐震適合性のあ		幸斤 ‡目	B607-2	
日日 日日 日日 日日 日日 日日 日日 日	3 30,000	, ,			0 1.2		44	44	45	重要給水施設配水管路のうち耐震適合性のある管路延長 (km)	Rロング継手の硬質塩化ビニル管を含めた場合は、業務指標にアスタリスク(*)を付ける。)	耐震適合率	45755	500. 2	
2216 伊電時配水量確保率 (日本の下水の)、世 (日本の下水の)、世 (日本の下水の)、世 (日本の下水の)、中 (日本の下水の)、日 (日本の				į l			77	77	83	重要給水施設配水管路延長(km)					
B608 2216 停電時配水量機保車 は高いほうが良い。 2216 停電時配水量機保車 2216 停電時配水量機保車 2216 停電時配水量機保車 2216 停電時配水量機保車 2217 第3								<100	/一日平均配水量)×	(全施設停電時に確保できる配水能力)	確保できる配水能力の割合を示すものであり、災				
全施設停電線に確保できる配水能力(m³/B) 81.686 81.686 88.248 - 日本	小学生生生	%	400.4	4700	400.0		R3	R4	R5			risk of English (Corto	0046	DCOO	
P	小数点第1	%	182.4	176.9	182.2		88,248	81,686	81,686	全施設停電時に確保できる配水能力 (m ³ /日)		停電時配水量催保率	2216	B008	
#19減業時間 (株理用 - 1 中 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回				į l			48,394	46,164	44,832	一日平均配水量(m³/日)					
B609 2211 薬品構築日数 製品性素剤の貯蔵量について、それぞれ平均注入 変数 円2 円3 1.15 1.15 1.16 27.4 29.4 26.9 26.9 27.4 29.4 26.9 27.4 27.4 29.4 26.9 27.4 27.4 27.4 27.4 27.4 27.4 27.4 27.4 27.4 27.4 27.4 27.4 27.4 27.4								'	-日平均使用量	平均凝集剤貯蔵量/凝集剤-					
第一名 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東	11, 365 EAST 2			00.4	07.4	^	R3	R4	R5	年度	応力を表す。水道施設設計指針2012では、凝集 剤と塩素剤の貯蔵量について、それぞれ平均注入	#5##5#	0044	D000	
	小数点第1	В	26.9	29.4	27.4	\triangle	31.15	31.15	27.39	平均凝集剤貯蔵量(t)		楽品備畜日数	2211	B009	
施設 整備				į l			1.16	1.06	1.00	凝集剤一日平均使用量(t/日)					
施 数 数 整								<u> </u>	料使用量						
型型 対策 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	11, 300 EAR 2				0.0		R3	R4	R5		表す。値は高いほうが良い。		0040	D040	災
日の 日の 日の 日の 日の 日の 日の 日の	小数点第1	8	0.3	0.3	0.3		1.80	2.10	2.07	平均燃料貯蔵量(kL)		燃料備蓄日数	2212	B610	対
B611 2205 応急給水施設密度 で、震災時などにおける飲料水の確保のしやすさ を表す指標の一つである。 年度 R5 R4 R3 R1 R1 R1 R1 R1 R1				į l			7.03	7.03	7.03	一日燃料使用量(kL/日)					策
B611 2205 応急給水施設密度 変数 年度 R5 R4 R3 8.1								'	k面積/100)	応急給水施設数/(現在給z					
応急給水施設数 (箇所) 8 8 8 1 1 1 1 1 1 1	2 11,385 = 65.4		0.4		0.4	^	R3	R4	R5	年度	を表す指標の一つである。	c	0005	D044	
総水人口1,000人当たりの絵水車保有台数を示	km ² 小数点第1:	箇所/100km ⁻	8.1	8.1	8.1	\triangle	8	8	8	応急給水施設数(箇所)		心思和水池設密度	2205	B611	
				į l			98.7	98.7	98.7	現在給水面積(km²)					
								,]/1,000)	給水車数/(現在給水人[
- 応急給水活動の対応性を表す。 <mark>値は高いほうが良</mark> - 安数)人 有効数字2	台/1,000人	0016	0016	0016	•	R3	R4	R5		応急給水活動の対応性を表す。値は高いほうが良い。	公小主 伊左连	2212	D610	
B612 2213 給水車保有度 総水車保有度 総水車以 (台) 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	人 有双数于2	B/1,000X	0.016	0.016	0.016		2	2	2	給水車数(台)		加小里休 有疫	2213	6012	
現在給水人口(人) 125,060 126,365 127,301				į l			127,301	126,365	125,060	現在給水人口(人)					
給水人口1,000人当たりの車載用給水タンク容 量を示すものであり、主に大地震などが発生した 車載用給水タンクの容量/(現在給水人口/1,000)					_	_			給水人口/1,000)	車載用給水タンクの容量/(現在	量を示すものであり、主に大地震などが発生した				
場合における高金齢が活動の対応性を表す。値は 年度 R5 R4 R3 な 25 R5 R5 R4 R3 な 25 R5)人 有効数字2	3/4 000	0.004	0.097	0.000	_	R3	R4	R5		場合における応急給水活動の対応性を表す。値は	事悪田鈴水 りいりにちゅ	2215	D612	
BB13 2215 車載用能水ダング保育度 車載用能水ダングの容量 (m³) 11 11 12 11 12 12 11 12 12 11 12 12 13 14 15 15 15 15 15 15 15	1人 日初数子乙	m ³ /1,000人	0.094	0.061	0.000		12	11	11	車載用給水タンクの容量 (m ³)		卑戦用約小ツノン採有及	2210	0013	
現在給水人口(人) 125,060 126,365 127,301							127,301	126,365	125,060	現在給水人口(人)					

C. 健全な事業経営

水道事業ガイドライン (JWWA Q 100 :2016) により算出

分類	区分	新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	上 算信				優位性	R5	R4	R3	単位	表示桁数
					営業収益の営業費用に対する割合を示すもので、 水道事業の収益性を表す。収益的収支が最終的に	[(営業収益-受託工事収益)/(営業	業費用-受託工事費)]×100							
					黒字であるためには、この値は100%を一定程 度上回っている必要がある。	年度 変数	R5	R4	R3						
						営業収益(円)	2,602,601,298	2,688,006,588	2,747,398,607						
		C101	3001	営業収支比率		受託工事収益(円)	C	455,355	0		91.9	98.2	100.3	%	小数点第1位
						営業費用(円)	2,831,099,131	2,736,597,136	2,739,172,536						
						受託工事費(円)	C	455,355	0						
					経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すもので、水道事業の収益性を表す。料	[(営業収益+営業外収益)/(営業	費用+営業外費用)	×100							
					金算定期間(財政計画期間)内で経常収支が 100%を上回っていれば、良好な経営状態とい		R5	R4	R3						
		C102	3002	4₹##JID → Liv oby	える。	営業収益(円)	2,602,601,298	2,688,006,588	2.747,398,607	A	106.5	113.4	115,1	%	小数点第1位
		C102	3002	経常収支比率		営業外収益(円)	636,013,993	648,145,364	656,425,497		106.5	113.4	115.1	76	小数屈弗 1世
						営業費用(円)	2,831,099,131	2,736,597,136	2,739,172,536						
						営業外費用(円)	210,142,837	205,883,460	219,279,050						
					総費用が総収益によってどの程度賄われているか を示すもので、水道事業の収益性を表す。料金算) ×100								
		C103	3003	総収支比率	定期間(財政計画期間)内で経常収支が100% を上回っていれば、良好な経営状態といえる。	年度 変数	R5	R4	R3	A	106.4	113.3	114.9	%	小数点第1位
		0100	3003	柳状文儿华		総収益(円)	3,240,655,090	3,336,470,910	3,407,432,381		100.4	110.0	114.9	/6	UI ckimixerti
	健					総費用(円)	3,046,591,572	2,945,863,495	2,964,760,511						
財務	全経				受託工事収益を除く営業収益に対する累積欠損金 の割合を示すもので、水道事業経営の健全性を表	L系恒火损±/(呂栗収益-安:	託工事収益)]×10	0							
	営				す。累積欠損金が発生していると、その企業の経 営は健全なものとは言えないため、O%であるこ	年度 変数	R5	R4	R3						
		C104	3004	累積欠損金比率	とが望ましい。	累積欠損金(円)	C	0	0		0.0	0.0	0.0	%	小数点第1位
						営業収益(円)	2,602,601,298	2,688,006,588	2.747,398,607						
						受託工事収益(円)	C	455,355	0						
					収益的収入に対する損益勘定繰入金の依存度を示しており、事業の経営状況を表す。 収益的収支の		的収入) ×100								
		C105	3005	 繰入金比率(収益的収入分)	赤字補填的に一般会計から繰入れを行うのは、独立採算の考え方からすると望ましくない。		R5	R4	R3	_	6.0	6.1	64	%	小数点第1位
		0,00	0000			損益勘定繰入金(円)	195,622,681	204,990,261	218,251,810		0.0	0.1	0.1	,,,	3 3000030 1 12
						収益的収入(円)	3,240,655,090	3,336,470,910	3,407,432,381						
					資本的収入に対する資本勘定線入金の依存度を示しており、事業の経営状況を表す。独立採算制の	(資本勘定繰入金/資本的	的収入計)×100								
		C106	3006	 繰入金比率(資本的収入分)	観点からは、基本的にこの指標の値は低い方が望 ましい。	変数	R5	R4	R3	_	32.5	33.7	38.2	%	小数点第1位
		0,00		**************************************		資本勘定繰入金(円)	293,608,443	291,276,911	299,066,276		02.0	00.1	33.2	,,,	3 3000030 1 12
						資本的収入計(円)	902,278,075	865,583,458	782,954,390						
					損益勘定職員一人当たりの給水収益を示すもので、水道事業における生産性について給水収益を		所属職員数								
		C107	3007	職員一人当たり給水収益	基準として把握するための指標。この数値が高い ほど職員の生産性が高いといえる。	年度 変数	R5	R4	R3	A	48,757	51,581	53,650	千円/人	整数
						給水収益(円)	2,486,627,581	2,579,054,160	2,628,866,934		, ,				
						損益勘定所属職員数 (人)	51	50	49						

C. 健全な事業経営

分類	区分	新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	計算式				優位性	R5	R4	R3	単位	表示桁数
					給水収益に対する職員給与費の割合を示すもの で、水道事業の収益性を表す。給水収益は様々な	(職員給与費/給水収益	益)×100								
		0.400		給水収益に対する	総水サービスに充てられるため、職員給与費の上 昇によってこの指標が高くなることは好ましくな い。	年度 変数	R5	R4	R3			107		٠,	
		C108	3008	職員給与費の割合		職員給与費(円)	485,068,775	430,619,696	418,111,286		19.5	16.7	15.9	%	小数点第1位
						給水収益(円)	2,486,627,581	2,579,054,160	2,628,866,934						
	Ī				給水収益に対する企業債利息の割合を示すもの で、水道事業の効率性及び財務安全性を表す。値 は低いほうが良い。	(企業債利息/給水収益	益) ×100								
				給水収益に対する		年度 変数	R5	R4	R3	_					
		C109	3009	企業債利息の割合		企業債利息(円)	121,335,634	135,570,917	151,872,785		4.9	5.3	5.8	%	小数点第1位
						給水収益(円)	2,486,627,581	2,579,054,160	2,628,866,934						
				給水収益に対する 減価償却費の割合	給水収益に対する減価償却費の割合を示すもの で、水道事業の収益性を表す。事業経営の安定性	(減価償却費/給水収割	費/給水収益)×100								
					(施設更新費用の確保)の観点から、年度間の格差が小さいことが望ましい。	年度 変数	R5	R4	R3				500	٠,	
		C110	3010			減価償却費(円)	1,352,776,369	1,337,637,331	1,367,622,663		54.4	51.9	52.0	%	小数点第1位
						給水収益(円)	2,486,627,581	2,579,054,160	2,628,866,934						
					会 併せて分析を行うことで、企業債が資金収支に及 ほす影響を把握することができる。	(建設改良のための企業債償還元	(建設改良のための企業債償還元金/給水収益)×100								
財財	健全	0444	3011	給水収益に対する建設改良の		年度 変数	R5	R4	R3		500	507	500	%	11, 305 EAN 4 M
務	経営	C111	3011	ための企業債償還元金の割合		建設改良のための企業債償還元金(円)	1,393,726,651	1,385,871,016	1,373,244,997	_	56.0	53.7	52.2	76	小数点第1位
						給水収益(円)	2,486,627,581	2,579,054,160	2,628,866,934						
				2 給水収益に対する 企業債残高の割合	給水収益に対する企業機販高の割合を示すもの で、企業債残高が規模及び経営に及ばす影響を表 す。値は低いほうが良い。	(企業債残高/給水収益)×100									
		C112	3012			年度 変数	R5	R4	R3		422.9	438.8	462.3	%	小数点第1位
		CITZ	3012			企業債残高(円)	10,516,895,304	11,317,921,955	12.152.192.971	•	422.9	430.0	402.3		小数屈弗1世
						給水収益(円)	2,486,627,581	2,579,054,160	2,628,866,934						
					給水原価に対する供給単価の割合を示すもので、 水道事業の経営状況の健全性を表す。100%を	(供給単価/給水原価)×100									
		C113	3013	料金回収率	下回っている場合、給水にかかる費用が料金収入 以外の収入で賄われていることを意味する。		R5	R4	R3	A	93.8	100.2	101.7	%	小粉占等4位
		0113	3013	科亚凹收举		供給単価(円/m³)	168.9	169.7	169.5		90.0	100.2	101.7	/6	小数点第1位
						給水原価 (円/m³)	180.1	169.3	166.6						
					有収水量1m ³ 当たりの給水収益の割合を示すも ので、水道事業でどれだけの収益を得ているかを										
		C114	3014	供給単価	表す。値は低いほうが良い。	年度 変数	R5	R4	R3		168.9	169.7	169.5	円/m ³	小数点第1位
		0114	3014	供給単価		給水収益(円)	2,486,627,581	2,579,054,160	2,628,866,934	•		103.7	105.5		
						年間有収水量(m ³)	14,726,698	15,201,424	15,511,167						

C. 健全な事業経営

分類	区分	新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	計算式				優位性	R5	R4	R3	単位	表示桁数
					有収水量 1m ³ 当たりの経常費用(受託工事費等 を除く)の割合を示すもので、水道事業でとれた けの費用がかかっているかを表す。恒は低い方が 事業体、契約省致力にとって望ましいが、低い理 由が、本来必要な建設改良事業、修繕を十分に 行っていない場合は、適正とは言えない。	[経常費用-(受託工事費+協議会・飲料水供給施設費+材料及で /年間有収水		附带事業費+長期的	前受金戻入)]						
						変数 年度	R5	R4	R3						
						経常費用(円)	3,041,241,968	2,942,480,596	2,958,451,586						
		C115	3015	給水原価		受託工事費(円)+協議会・飲料水供給施設費(円)	88,346,094	70,413,606	67,103,644	_	180,1	169.3	166.6	円/m ³	小数点第1位
				1100 TO 1100		材料及び不用品売却原価(円)	0	0	0					13/11	
						附带事業費(円)	0	0	0						
						長期前受金戻入(円)	300,559,716	299,073,309	307,058,669						
						年間有収水量(m³)	14,726,698	15,201,424	15,511,167						
					水道事業体間の料金比較の対象として、1か月に 10m ³ 使用した場合における水道料金を示し、契	1か月10m ³ 当たり家	庭用料金								
		C116	3016	6 1か月10m ³ 当たり 家庭用料金	約者の経済的利便性を表す。全国平均などと比較 の上、格差是正に向けた対応が求められる。	変数 年度	R5	R4	R3		1,320	1,320	1,320	円	整数
		CITO	3010			1ヶ月当たりの一般家庭用(口径13mm)の基本料金(円)	550	550	550	•	1,320	1,320	1,320	1,3	並数
						10m ³ 使用時の従量料金(円)	770	770	770						
					一般的な家庭の使用水量を想定し、1か月に20 m ³ 使用した場合における水道料金を示し、契約 者の経済的利便性を表す。全国平均などと比較の 上、格差是正に向けた対応が求められる。	1か月20m ³ 当たり家	庭用料金								
		C117	3017	1か月20m ³ 当たり		変数 年度	R5	R4	R3		2,893	2,893	2,893	円	整数
		CIII	3017	家庭用料金		1ヶ月当たりの一般家庭用(口径13mm)の基本料金(円)	550	550	550	•	2,093	2,093	2,093	13	並数
	健					20m ³ 使用時の従量料金(円)	2,343	2,343	2,343						
財務	全経				流動負債に対する流動資産の割合を示すものであ り、事業の財務安全性を表す。値は100%以上 であることが必要であり、100%を下回ってい れば、不良債務が発生している可能性が高い。	(流動資産/流動負債	×100								
970	営	C118	3022	流動比率		変数 年度	R5	R4	R3	A	221.8	232.5	213.6	%	小数点第1位
		0110	0022	Made 1		流動資産(円)	3,731,045,729	4,008,247,562	3,938,314,283				2.0.0		333333
						流動負債(円)	1,681,973,078	1,724,248,008	1,843,475,193						
				自己資本構成比率	総資本 (負債及び資本) に対する自己資本の割合 を示しており、財務の健生を表す。事業経営の 長期的安定化を図るためには、自己資本の造成が 必要である。値は高いほうが良い。	[(資本金+剰余金+評価差額など+繰延収	益)/負債・資本合	計]×100							
							R5	R4	R3						
						資本金(円)	14,691,963,639	13.934.322.724	13.403.529.046						小数点第1位
		C119	3023			剰余金(円)	2,090,616,317	2,375,160,237	2,235,788,954		65.2	63.6	61.5	%	
						評価差額など(円)	0	0	0						
						繰延収益(円)	4,971,678,482	5,204,697,865	5,431,983,600						
						負債・資本合計(円)	33,341,250,312	33.810.615.953	34.264.565.492						
					自己資本に対する固定資産の割合を示すものであり、財務の安定性を表す。この比率が100%以	[固定資産/(資本金+剰余金+評価差額	など+繰延収益))×100							
					下であれば、財務面で安定的といえる。値は低いほうが良い。		R5	R4	R3						小数点第1位
						固定資産(円)	29,610,204,583	29.802.368.391	30.326.251.209						
		C120	3024	固定比率		資本金(円)	14,691,963,639	13.934.322.724	13.403.529.046		136.1	138.5	143.9	%	
						剰余金(円)	2,090,616,317	2,375,160,237	2,235,788,954						
						評価差額など(円)	0	0	0						
						繰延収益(円)	4,971,678,482	5,204,697,865	5,431,983,600						

C. 健全な事業経営

分類 〔	区分	新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	計算式				優位性	R5	R4	R3	単位	表示桁数
					当年度減価償却費に対する企業債償還元金の割合を示すもので、投下資本の回収と再投資との間の パランスを見る指標。この指標が100%を超え	[建設改良のための企業債償還元金/(当年度減価 ※平成28年度から数式を変更(長期前受金戻入		<u>戻入</u>)]×100							
					ると、投資の健全性は損なわれることになる。	変数	R5	R4	R3						
		C121	3025	企業債償還元金 対減価償却費比率		建設改良のための企業債償還元金(円)	1,393,726,651	1,385,871,016	1,373,244,997		132.5	133.4	129.5	%	小数点第1位
						当年度減価償却費(円)	1,352,776,369	1,337,637,331	1,367,622,663						
					1	長期前受金戻入(円)	300,559,716	299,073,309	307,058,669						
	Ī				固定資産(年度平均)に対する営業収益の割合を 示すものであり、1年間に固定資産額の何倍の営	(営業収益-受託工事収益)/[(期首	国定資産+期末固定	資産)/2]							小数点第2位
					業収益があったかを示す指標。値が高い場合は、 施設が有効に稼働し、固定資産として投下された	年度 変数	R5	R4	R3						
		0400	0000			営業収益(円)	2,602,601,298	2,688,006,588	2,747,398,607	•	0.00	0.00	0.00		
		C122	3026	固定資産回転率		受託工事収益(円)	0	455,355	0		0.09	0.09	0.09		
						期首固定資産(円)	29,802,368,391	30.326.251.209	31.014.591.380						
						期末固定資産(円)	29,610,204,583	29.802.368.391	30,326,251,209						
				7 用空巡车练用前室	有形固定資産に対する年間総配水量の割合を示す もので、施設の使用効率を表す。値が大きいほど 施設が効率的であることを意味し、値が低い場合 は、資産の効率的活用についての検討を要する。	年間配水量/有形	固定資産								小数点第1位
		0400	2007			年度 変数	R5	R4	R3	•	5.8	F.O.	64	3,	
		C123	3027	固定資産使用効率		年間配水量(m³)	16,408,532	16,850,170	17,663,645		5.8	5.9	6.1	m ³ /万円	小数屈弗 1世
	健					有形固定資産 (円)	28,205,783,555	28.496.738.254	28.918.289.122						
務	全経				1年間における損益勘定職員―人当たりの有収水量を示すもので、水道サービスの効率性を表す。	年間総有収水量/損益甚	₹量/損益勘定所属職員数								
	営	C124	3109	職員一人当たり有収水量	値は高いほうが良い。	変数 年度	R5	R4	R3	A	289,000	304,000	317,000	D m ³ /人	千位
			3109			年間総有収水量(m³)	14,726,698	15,201,424	15,511,167						
						損益勘定所属職員数(人)	51	50	49						
				5 料金請求誤り割合	料金請求総件数に対する誤請求の件数の割合を示すもので、料金関連業務の適正度を表す。 値は低いほうが良い。	誤料金請求件数/(料金請求件数/1,000)									
		C125	5005			年度 変数	R5	R4	R3		0.02	0.01	0.02	件/1,000件	小数点第2位
		C125	5005			誤料金請求件数(件)	9	2	9	•	0.02	0.01	0.02		
						料金請求件数(件)	366,564	367,250	365,314						
					1年間の水道料金総調定額に対して、決算確定時 点において納入されている収入額の割合を示すも	(料金納入額/調定)	頁)×100								
		0400	5000	NO A IDATE	ので、水道事業の経営状況の健全性を表す。値は 高いほうが良い。	年度 変数	R5	R4	R3	•	00.0	07.7	00.0	0/	11.325 - 55 4 66
		C126	5006	料金収納率		料金納入額(円)	2,413,883,162	2,487,641,505	2,544,722,864		88.2	87.7	88.0	%	小数点第1位
						調定額(円)	2,735,290,325	2,836,959,564	2,891,753,623						
	Ī				給水件数に対する給水停止件数の割合を示すもので、水道料金の未納状況の度合いを見る指標。値										
		0407	5007		と、 が過程型の未納込光の反合いを見る指標。 値は低いほうが良い。	年度 変数	R5	R4	R3		10.8	10.8	13.6	件/1,000件	小数点第1位
		C127	5007	給水停止割合		給水停止件数(件)	664	665	834	•					
						給水件数(件)	61,443	61,397	61,301						

C. 健全な事業経営

分類	区分	新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	計算式					R5	R4	R3	単位	表示桁数
				水道技術に関する資格取得度	職員が取得している水道技術に関する資格数の全 職員に対する割合を示すもの。専門知識のある水	職員が取得している水道技術に関す	「る資格数/全職員	数							
		C201	2101		道技術者の確保、育成を行う上での一つの目安となる。 値は高いほうが良い。	変数 年度	R5	R4	R3	A	3,40	3.50	3,16	件/人	小数点第2位
		0201	0101	小 直 技順 に 民 9 の 責 信 取 付 及		職員が取得している水道技術に関する資格数(件)	197	196	180		0.40	0.00	0.10	1177	1,30m/si210
						全職員数(人)	58	56	57						
					職員一人当たりの外部研修の受講時間を示すもの で、技術継承及び技術向上への取組み状況を表	(職員が外部研修を受けた時間×受	·講人数)/全職員	数							
		C202	3103	外部研修時間	す。値は高いほうが良い。	変数	R5	R4	R3	A	3.3	2.7	0.8	時間/人	小数点第1位
		0202	0100	ALDAMI III PARIEI		職員が外部研修を受けた時間×受講人数(延べ時間)	190	150	45		0.0	2.1	0.0	القالقة	TI CK MASE U
						全職員数(人)	58	56	57						
					職員一人当たりの内部研修の受講時間を示すもの で、技術経承及び技術向上への取組み状況を表	(職員が内部研修を受けた時間×受	·講人数)/全職員	数							
		C203	3104	内部研修時間		変数	R5	R4	R3	A	0.0	0.0	0.0	時間/人	小数点第1位
		3233	0104	631694 IMAGE 4		職員が内部研修を受けた時間×受講人数(延べ時間)	0	0	0		0.0	0.0	0.0	القالقة	TI CK MASE U
						全職員数(人)	58	56	57						
	材	C204		5 技術職員率	全職員数に対する技術職員の割合を示すもので、 技術面での維持管理体制を表す。この値が低く及 ることは、直営での施設の維持管理が困難となる ことにつながる。	(技術職員数/全職員数)	×100								
	育成		3105			変数	R5	R4	R3	_	74.1	76,8	75.4	%	小数点第1位
			0.00	320049324		技術職員数(人)	43	43	43				,	,,,	3 20,000
組						全職員数(人)	58	56	57						
織					全職員の水道業務平均経験年数を示すもので、人 的資源としての専門技術の蓄積度合いを表す。こ の値が大きい方が、職員の水道事業に関する専門 性が高いと考えられる。値は高いほうが良い。	職員の水道業務経験年数	/全職員数								
人材		C205	3106	水道業務平均経験年数			R5	R4	R3	A	14.0	13.7	13.8	年/人	小数点第1位
-				3,42,413,123,424,134		職員の水道業務経験年数(年)	812	769	788						
					CROVIDATE 1871とスの地方口名の手	全職員数(人)	58	56	57						
		C206	6001	国際協力派遣者数	国際協力に派遣された人数とその滞在日数の積 で、国際協力への関与の度合いを表す。値は高い ほうが良い。 受け入れた海外の水道関係者の人数と滞在日数の	/m rate									
						変数 年度	R5	R4	R3		0	0	0	人・日	整数
						Σ (国際協力派遣者数×滞在日数)	0	0	0						
					受け入れに海外の水道関係省の人数と滞住日数の 積で、国際協力への関与の度合いを表す。値は高いほうが良い。	2 (国际肠刀受入有数入滞住口数)									
		C207	6101	国際協力受入者数	いはつか長い。	変数	R5	R4	R3		0	0	0	人・日	整数
					水道メーター設置数に対する検針委託している水	∑ (国際協力受入者数×滞在日数)	0		0						
					道メーター設置数に対する検引委託している小 道メーター数の割合を示すもので、業務委託の度 合いを表す。検針委託は、水道事業の業務の民間	(委託した水道メーター数/水道メー 年度									
		C301	5008	検針委託率	委託の中では典型的な例である。	変数	R5	R4	R3	_	100.0	100.0	100.0	%	小数点第1位
	業					委託した水道メーター数(個)	64,529	64,343	63,992					,,	
	務委					水道メーター設置数(個)	64,529	64,343	63,992						
	託				全浄水場の浄水施設能力のうち、第三者委託している浄水場の浄水施設能力の割合を示すもので、 第三者委託の導入状況を表す。	(
		C302	5009	净水場第三者委託率	20 - 1 300 - 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	変数	R5	R4	R3	_	6.9	6.9	6.9	%	小数点第1位
				33.55.5		第三者委託した浄水場の浄水施設能力 (m ³ /日)	6,200	6,200	6,200						
						全净水施設能力(m ³ /日)	89,948	89,948	89,948						

C. 健全な事業経営

分類	区分	新番号	旧番号	業務指標	業務指標の説明	計算式	計算式					R4	R3	単位	表示桁数
					給水件数に対する広報誌などの発行部数の占める 割合を示すもので、お客さまへの事業内容の公開	広報誌などの配布部数	以/給水件数								
					度合いを表す。値は高いほうが良い。		R5	R4	R3	•				+0.///	
		C401	3201	広報誌による情報の提供度	ū	広報誌などの配布部数(部)	82	82	82		0.0	0.0	0.0	部/件	小数点第1位
						給水件数(件)	61,443	61,397	61,301						
	情報提供	C402	新規	インターネットによる 情報の提供度	インターネット(ウェブページ)による水道事業 の情報発信回数を表すもので、お客さまへの事業 内容の公開度合いを表す。値は高いほうが良い。	ウェブページへの排	曷載回数			A	90	100	87	0	整数
					給水人口に対する水道施設見学者の割合を示すも ので、お客さまとの双方向コミュニケーションの	見学者数/(現在給水人口/1,000)									
		0400	2004	-1.*************************	推進度合いを表す。値は高いほうが良い。	安 数	R5	R4	R3	A	4.6	0	0	1/4 000 1	左50*kp空0*5
		C403	3204	水道施設見学者割合		見学者数(人)	570	0	0		4.6	0	0	人/1,000人	有効数字2桁
						現在給水人口(人)	125,060	126,365	127,301						
				モニタ割合	現在給水人口に占めるモニタ人数の割合を表すも ので、お客さまとの双方向コミュニケーションの	モニタ人数/(現在給水ノ	(□/1,000)								
		C501			推進度合いを表す。値は高いほうが良い。		R5	R4	R3	•					
			3202			モニタ人数(人)	0	0	0		0	0	0	人/1,000人	有効数字2桁
お 客						現在給水人口(人)	125,060	126,365	127,301						
さま	Ī				給水人口に対する1年間に実施したアンケート調査に回答した人数の割合を示し、お客さまのニー	アンケート回答人数/(現在編	合水人口/1,000)								
との					ズの収集実行度を表す。値は高いほうが良い。		R5	R4	R3						
		C502	3203	アンケート情報収集割合		アンケート回答人数(人)	アンケート未実施	アンケート未実施	アンケート未実施		_	_	_	人/1,000人	小数点第2位
1						現在給水人口(人)	125,060	126,365	127,301						
二 ケ		C503			水道水を飲用としているお客さまの割合を示すも のであり、水道水の飲み水として評価を表す。値 が高いほと、水道水の飲み水として評価を高いと いうことになる。値は高いほうが良い。										
シ							R5	R4	R3		_		_	%	
ョン			3112	直接飲用率		直接飲用回答数(人)						_			小数点第1位
	意見					アンケート回答数(人)	アンケート未実施 ア	アンケート未実施	アンケート未実施						
	収集				総水件数に対する水道サービスに関する苦情対応 件数の割合を示すもので、水道サービス向上に対 する取組み状況を表す。値は低いほうが良い。	ル道サービフ共傳対応供物/(2全水供物/4,000)									
	*			水道サービスに対する 苦情対応割合			R5	R4	R3	_					小数点第2位
		C504	3205			水道サービス苦情対応件数(件)	15	4	8		0.24	0.07	0.13	件/1,000件	
						給水件数(件)	61,443	61,397	61,301						
	-				給水件数に対する、水道水の水質に関する苦情対 応件数の割合を示すもので、水道水質の向上に対	水質苦情対応件数/(給水	件数/1,000)								
					する取組み状況を表す。値は低いほうが良い。		R5	R4	R3	_					
		C505	3206	水質に対する苦情対応割合		次質苦情対応件数 (件)	9	3	3		0.15	0.05	0.05	件/1,000件	小数点第2位
						給水件数(件)	61,443	61,397	61,301						
	}				 給水件数に対する水道料金に関する苦情対応件数 の割合を示すもので、お客さまの水道料金への満	ル常則令共棲対応此数 / (外									
				-107400001-144-	の割合を示すもので、お客さまの水道料金への海 足度を表す。値は低いほうが良い。	年度 P5 P4 P2									
		C506	3207	水道料金に対する 苦情対応割合		変数 水道料金苦情対応件数(件)	0		2		0.00	0.00	0.03	件/1,000件	小数点第2位
						給水件数(件)	61,443		61,301						
\Box							0.,110	2 .,20 .							